

# 小施策評価シート (平成 28 年度実績評価)

施策コード	20	施策名	地球環境の保全と自然との共生	
小施策コード	20-4	小施策名	地球温暖化対策の推進	
小施策 主管課等コード	510000	小施策 主管課等名	環境企画課	
評価責任者名	千葉 信幸		内線番号	8410
評価シート作成者名	小林 敬		内線番号	8411

## Step 1 施策目標の達成状況

まちづくり指標	目指す 方向	単 位	25年度 実績 (当初値)	27年度 実績	28年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
まちづくり評価アンケート 調査「自然が守られていると思 う」と答えた市民の割合	↑	%	80.8	82.6	82.7	83.0	86.0
まちづくり評価アンケート 調査「CO <sub>2</sub> の発生抑制やごみ の減量など、地球環境にやさし い生活を常に心がけている」と 答えた市民の割合	↑	%	80.7	78.4	79.2	83.0	86.0
ごみ総排出量*	↓	t	118,398	114,318	111,703	111,770	105,880

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持  
することを目標とする指標)

\* 盛岡市一般廃棄物処理基本計画の改訂にあわせ、28年度に目標値を変更した。

## Step 2 小施策の全体像

### 小施策の概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

対象（誰（何）を対象として行うのか）	意図（対象をどのようにしたいのか）
市民・事業者	温室効果ガス排出量を抑制する。
現状と課題	市域における温室効果ガス排出量は、17年度をピークに減少傾向にあったが、東日本大震災後の23年度は増加傾向に転じた。地球温暖化対策実行計画の目標年度である32年度における温室効果ガス排出量の7%削減（平成2年度比）に向け、地域経済の好循環にもつなげる再生可能エネルギーの普及拡大やエネルギーの地産地消を促進するとともに、市民の省エネ行動の啓発などを効果的に進めていく必要がある。
取組の方向性	温室効果ガスの排出削減のため、太陽光、風力、木質バイオマスなど、再生可能エネルギーの普及促進や、省エネ機器の導入などによるエネルギーの効率的な利用を促進する。

## Step 3 小施策指標の推移

小施策の指標	目指す方向	単位	25年度実績 (当初値)	27年度実績	28年度実績	31年度目標値	36年度目標値
温室効果ガスの総排出量	↓	千t-co2	2,492	調査中	調査中	1,984	1,685

（↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていることを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標）

## Step 4 市民ニーズの把握

盛岡市まちづくり評価アンケート結果によると、「エネルギーの有効利用や廃棄物の発生抑制など、環境への負荷を軽減する取組」については、22.8%の市民が満足している一方、68%の市民が「今後の取組が重要」と答えている。

## Step 5 役割分担分析

### 1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の 役割の状況	市	市民，事業者，市の三者が協力連携できる仕組みを整備するとともに，地球温暖化に関する情報提供，啓発事業を行う。	25
	国・県・ 他自治体	地球温暖化に関する情報を提供するとともに，他自治体等と相互連携し地球温暖化対策に取り組む。	25
	市民・ NPO	生活と地球温暖化問題を理解し，日常生活で省エネ，省資源等に取り組む。NPOと協力連携し，地球温暖化対策として特に環境啓発に取り組む。	25
	企業・ その他	地球温暖化問題を理解し，事業活動における省エネ，省資源に取り組むとともに，市の施策に協力する。	25

### 2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

地球温暖化問題は，気候変動等の世界的規模のものから，省エネ対策・ごみ削減等身近な生活環境に関連するものまで多岐にわたるため，民間事業者と協力連携して再生可能エネルギーの普及促進を図るとともに，地球温暖化対策実行計画推進基金を活用した温室効果ガス排出削減施策の展開が必要となることから，市の役割を拡大するもの。

## Step 6 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

### 1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

- ・ 再生可能エネルギー発電設備設置を希望する事業者へ支援継続する。
- ・ 地球温暖化対策実行計画推進基金の新たな財源を確保すること。
- ・ 地球温暖化対策実行計画推進基金の活用事業の精査すること。
- ・ 省エネ効果が高いとされるホームエネルギーマネジメントシステムを補助対象機器とすること。
- ・ 地球温暖化問題及びその対策として木質バイオマスを含む再生可能エネルギーの普及を促進する。

### 2 1の改革改善案の実施状況

(A：着手済, B：平成29年度に着手(予定含む), C：未着手または見送り)

改革改善案	具体的な取組(予定)内容	状況
再生可能エネルギー発電設備設置希望事業者への支援継続	風力発電設備の整備計画の認定や地熱発電施設の整備を支援した。	A
地球温暖化対策実行計画推進基金の新たな財源確保	ふるさと納税が充当されたほか、寄附金があった。	A
地球温暖化対策実行計画推進基金活用事業の精査	各課からの活用事業を精査し、事業を実施した。	A
ホームエネルギーマネジメントシステムへの補助	ホームエネルギーマネジメントシステムを補助対象機器とした。	A
再生可能エネルギーの普及促進	木質バイオマスの利用促進を図るアクションプランを平成29年度に策定予定	B

### 3 2で挙げた取組状況がCの場合、その原因

## Step 7 成果・問題点の把握

### 1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策の中で成果をあげた点

- ・ 「再生可能エネルギー等普及促進事業」において、民間事業者により、風力発電設備の整備着手と地熱発電設備の整備が行われた。
- ・ 「盛岡市住宅用太陽光発電システム等設置費補助金」により、178件の太陽光発電システム等が設置された。

#### (2) 成果をあげた要因

- ・ 「再生可能エネルギー等普及促進事業」において、各制度の手続きなどを民間事業者と協力・連携して実施した。
- ・ 住宅用太陽光発電システム等設置費補助の対象機器を拡大した。

**(3) さらなる成果向上に向けた課題（課題がある場合に記載）**

- ・ 再生可能エネルギー発電設備設置を希望する事業者への支援を継続する。
- ・ 太陽光以外の再生可能エネルギーの普及促進を図る。

**2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定**

**(1) 小施策における現状の問題点**

地球温暖化対策実行計画推進基金が減少している。

**(2) 現状の問題点が生じている原因**

地球温暖化対策実行計画推進基金の財源である再商品化拠出金や磁性物売払金等の収入が減少しているため。

**(3) 分析した原因の解決に向けた課題**

地球温暖化対策実行計画推進基金の活用事業の内容を見直す。

**Step 8 小施策と構成事業の関係性**

**1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業**

該当事業なし。

**2 1で記載した事業についてその理由**

**3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）**

**Step 9 Step7, 8を踏まえた改革改善案**

- ・ 「再生可能エネルギー等普及促進事業」において、発電事業者への支援を継続して再生可能エネルギー設備の増加を促すとともに、関係機関との協議を進め、「木質バイオマスエネルギー利用推進アクションプラン」を策定し、木質バイオマスエネルギーの普及促進につなげる。
- ・ 「地球温暖化対策実行計画推進事業」において、地球温暖化対策実行計画推進基金の活用事業の内容を精査し、より効果が望める事業に絞ることで、基金の適切な運用を図る。